

氏名	大場良子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	成人看護学、がん看護学、緩和ケア、健康心理学				
学位	修士（カウンセリング）、博士（ヒューマン・ケア科学）				
学歴	1995年3月埼玉県立衛生短期大学、2002年3月青山学院大学文学部教育学科、2010年3月筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程、2024年3月筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群3年制博士課程ヒューマン・ケア科学学位プログラム修了				
経歴	2004年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、2011年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本ヒューマン・ケア心理学会（常任理事）、日本健康心理学会、日本カウンセリング学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、AYAがんの医療と支援のあり方研究会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	婦人科がん体験者における女性性の危機と再適応過程に関する心理学的研究	単著	あり		筑波大学博士論文	中澤（大場）良子
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	コロナ禍におけるオレンジティのAYA世代の患者会活動ーオンライン活動になってから臨機応変に対応した3年間を振り返るー	共同	第5回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会、品川	○植木朋子、中野季里子、小濱京子、大場良子、矢後綾子、河村裕美		2023.5
2	私たち婦人科がん患者の声を届けるためのPPIの取り組み「コグスネット座談会」～患者と医療者をつなぎ育てるプラットフォーム～	共同	第61回日本癌治療学会学術集会、横浜	○内山由紀、三武美紀、植木朋子、長谷川知子、矢後綾子、大場良子、小濱京子、河村裕美		2023.10
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	中堅看護師の教育力深化を目指したアクティブラーニング型研修の開発と評価		研究分担者	2018.4～2024.3	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）	チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プログラム開発と評価		研究分担者	2019.4～2024.3	
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	小グループ学習法における総括的評価に資するピア評価の確立		研究分担者	2019.4～2024.3	
4	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	AYA世代婦人科がん体験者における女性性の危機と再適応を促す因果モデルの検証		研究代表者	2020.4～2025.3	

5	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	炎症性腸疾患患者の寛解維持を支える健康心理学的援助プログラムの開発	研究分担者	2021.4～2025.3
6	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	ポジティブ・ヘルスに資する若年者向けヘルスリテラシー育成プログラムの開発	研究分担者	2022.4～2026.3

### 3. 教育業績

#### (1) 講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	成人看護学Ⅲ		2	大腸手術後の機能障害をもつ患者の看護について講義を行った。
2	成人看護学Ⅴ		5	慢性疾患事例の看護過程演習として、PBLテュートリアルを活用したアクティブラーニングを行った。
3	理学療法学科__地域理学療法学演習		1	理学療法学科の演習授業において、緩和ケアとリハビリテーションについて講義を行った。
4	がん看護学概論		5	がん看護専門看護師課程の学生を対象とし、①がん看護領域における対象理解と援助の基盤となる理論・概念について、その発展の過程をふまえ、定義、がん看護実践における意義を探求する。②既存の研究や実践での活用例に関する文献などを分析的かつ批判的に検討することで、理解を深める科目である。主に「がんサバイバーシップ」「自己効力感」「行動変容」「トータルペイン」「ナラティブ、NBP (Narrative-Based Medicine)」を担当し、関連文献の検討や事例検討を中心にを行った。
5	がん看護学援助論Ⅰ		10	がん看護専門看護師課程の学生を対象とし、がん看護専門看護師としての役割を遂行するために必要な知識、技術、態度と、専門職との連携について学習する科目である。「高度実践看護 統合的アプローチ 第2版」を用いて、学生がプレゼンと討議を行なった。
6	がん看護学援助論Ⅱ		15	がん看護専門看護師課程の学生を対象とし、がん化学療法と放射線療法をうけながら生活するがん患者・家族に対する看護、また、薬理作用、有害事象の予防と対処法、症状マネジメントについて学ぶ科目である。プレゼンテーションや討議を中心に実施した。
7	がん看護学援助論Ⅲ		15	がん看護専門看護師課程の学生を対象とし、緩和ケアおよびエンド・オブ・ライフケアを受ける患者・家族への看護、特に終末期に焦点をあて、スピリチュアルケアや意思決定支援、看取りケア、地域や多職種チームでの看護実践についての学びから、がん看護専門看護師の役割を考究する科目である。講義、プレゼンと討議、事例検討を行った。主に「看護師のグリーフケア」を担当した。

#### (2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	成人看護学Ⅲ		4	周術期の看護技術である、離床時のケアと寝衣交換の演習を行った。
2	成人看護学Ⅳ		4	クリティカル演習「心肺蘇生法」を実施した。動画教材を導入してイメージ化を図り、モデル人形を活用した演習を行った。
3	がん看護学演習Ⅰ		30	がん看護専門看護師課程の学生を対象とし、がんリハビリテーションを必要とする患者と家族の体験を理解したうえで、がん治療がもたらす生活への影響と心理社会的ニーズを踏まえた支援方法を探求する。また、フィールドワークやロールプレイ、ファシリテーション演習を行った。

(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	成人看護学実習Ⅰ		2023.5～2023.6	3年生を対象にした急性期・クリティカルケアにかかわる実習である。本実習では臨地実習と学内実習を合わせて実施し、主に学内実習を担当した。
2	成人看護学実習Ⅱ	○	2023.5～2023.6	3年生を対象に、2週間に渡り臨地実習を行い指導を行った。
3	がん実践看護実習Ⅰ		2024.1～2024.2	がん看護専門看護師を目指す大学院生3名を対象に、訪問看護ステーションでの実習支援を行った。
4	がん実践看護実習Ⅱ		2023.5～2023.6	がん看護専門看護師を目指す大学院生1名を対象に、がん専門病院で診療実習を行った。主に実習前後の支援に関わった。
5	がん実践看護実習Ⅲ		2023.7～2023.8	がん看護専門看護師を目指す大学院生1名を対象に、がん専門病院での役割実習を行った。主に実習前の支援と、実習後の振り返りと評価を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.4～2023.12	主指導 4名	副指導 名
2	修士論文	2023.4～2024.3	主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 3名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第24回大会・研修会	日本ヒューマン・ケア心理学会・研修委員	セルフコンパッションとは何か？ ～自分を思いやるための実践方法～	2023.7
2	新人教育担当（新カフス）研修	川口市立医療センター	「新人看護師を育てるとは」	2024.2
3	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学（基盤研究C）	看護師の教育力を高めるためのセミナー 1. グループ学習① 困難事例を用いた教育介入の検討 2. グループ学習② 院内・病棟内研修計画立案と共有	2023.11 2024.1
4	看護師の調整力向上プログラム	埼玉県立大学（基盤研究B）	看護師の調整力向上プログラム	2024.2
5	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	2023年度 認定看護師フォローアップ研修 「緩和ケア認定看護師の発展のために」	2024.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	日本ヒューマン・ケア心理学会	常任理事（研修委員長）		2023.4～2025.3
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	NHKハートフルネット	AYA世代がん体験者の患者会の紹介映像に参加した		2023.4
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	認定NPO法人オレンジティ	女性特有がん体験者（特に婦人科がん体験者）を対象にしたおしゃべりルーム（交流会）やアピアランスケア、婦人科がん体験者と支援者との座談会をオンラインにて4回/月開催し、ファシリテーターとして参加支援している。	2023.4～2024.3

2	地域貢献活動	埼玉県・さいたま市若年性認知症サポートセンター	リンカフェ春の遠足ボランティアとして、若年性認知症体験者や家族、支援者と共に、遠足に同行した。	2023.4
3	地域貢献活動	かんわケアサロン	がん体験者や家族、支援者のための交流会を開催した。	2024.3
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学生支援	学年担任、履修相談、学習相談、進路相談と支援		2021.4～現在
2	学科等における委員会等	倫理委員会		2023.4～2025.3
3	大学広報活動	オープンキャンパス（学生相談）		2023.8
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	茗溪会賞	一般社団法人 茗溪会	2024.3	
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	公認心理師資格取得（2022）、博士号取得（2024.3）			